

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 世羅町循環型農業推進協議会
都道府県 広島県
対象地域 世羅町
対象品目 キャベツ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

世羅町のキャベツ栽培では、病害虫防除のために化学農薬に依存した防除を行っていますが、近年、ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫被害が著しく、化学農薬のみで対応できず、総合防除の導入が必要な状況です。そこで、防蛾灯による被害軽減を行い、スケジュール散布から害虫発生状況を確認した上での農薬散布にすることで、本圃での農薬の使用成分、使用回数を削減します。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植		収穫		定植		収穫						
技術名	定期的な化学農薬による防除 散布例 ベリマークSC ディアナSC ウララDSC プロフレアSC ベネビアOD プレオフロアブ				定期的な化学農薬による防除 散布例 ベリマークSC マッチ乳剤 ディアナSC プロフレアSC ルプレオフロアブ ベネビアOD								現在は化学農薬のみで防除。 慣行では、平均して6剤を各1回使用。

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植		収穫		定植		収穫						
技術名	防蛾灯設置	発生予測に基づく 化学農薬による防除 散布例 ベリマークSC ウララDSC プロフレアSC ベネビアOD			防蛾灯設置	発生予測に基づく 化学農薬による防除 散布例 ベリマークSC マッチ乳剤 プロフレアSC ベネビアOD							防蛾灯による物理的防除を組み合わせ た総合防除体系へ転換することで、慣 行に対してディアナSC及びプレオフロア ブの2回分の散布を削減。

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	13	▶ 30	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1	▶ 4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1	▶ 4	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1	▶ 4	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 防蟻灯を活用した総合防除	化学農薬の使用回数の削減 化学農薬の散布時間の4割削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	5	▶ 3	防蟻灯の設置によりチョウ目害虫成虫の飛来及び産卵を抑制し、従来実施していたディアナSC（スピネトラム剤）及びプレオフロアブル（ピリタリル剤）等による防除各1回を削減することで、化学農薬使用回数を削減する。
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

ホームページ等で情報を公表するとともに、主なキャベツ栽培者に啓発していく。

関係者の役割

関係者名	世羅町	生産者	広島県東部農業技術指導所	広島県尾道農林事業所
役割	全体統括、情報発信	実証試験実施、 産地戦略・マニュアル作成	技術の普及、実証試験支援、 産地戦略・マニュアル作成	産地戦略検討